

海外邦人安全対策連絡協議会（2022年3月）

3月8日、「第344回海外邦人安全対策連絡協議会」を開催したところ、概要につき以下のとおり。主な議題は、新規感染状況、3回目のブースター接種の見通しなど。

1. 冒頭

（大使館総括公使）

幸いオミクロン株は収束の兆しが見えており、昨日付けでジャカルタ首都圏の活動制限がレベル2に下がった。また日本の水際措置も緩和され、インドネシアから日本への渡航者が今後増えることが見込まれる。まさに国際的な人の往来が、観光を除いてはかなり平常に近づいていくというような潮目に現在あるのではないかと思う。このような時期だからこそ、人の往来が増えたらこれに比例して増大するリスクにも我々としては備えていく必要があり、我々の課題も質的に変容していくと推測されるので、柔軟に対応できるような体制作りや情報交換を引き続き行っていきたい。

2. 治安ならびに邦人に関わる最近の事件・事故報告

（大使館政務部書記官）

ラマダン前の一般的な注意喚起について申し上げる。来月頭からイスラム教の断食月であるラマダンに入り、5月頭には断食明けの大祭であるレバランが開催される。イスラム教徒にとってラマダン・レバラン期間中は、彼らの習慣を尊重して、周りの人の感情を害さないように通常以上の配慮が必要。過去、日本人ではないが、外国人が騒いでトラブルに巻き込まれたケースもあるので、この国の習慣について十分に気をつけていただきたい。また、ラマダン期間中も引き続きテロへの警戒を怠らないようにしていただきたい。具体的には最近のテロの標的となりやすい警察等の治安関係施設や、宗教関係施設などを訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら速やかにその場を離れるなど安全確保に努めていただきたい。また、ラマダン・レバラン期間中はスリや置き引きなど一般的な犯罪も増えるので、防犯・安全対策も怠らないようにしていただきたい。

（大使館警備班書記官）

再度の注意喚起とお願いをさせていただく。来月頭からラマダンが始まることに伴い、生活には色々ご注意ください。常日頃からお願いしているが、日頃の防犯対策に関しても基本的な注意事項として、歩行の際には貴重品はカバン等に入れて持ち歩き、カバンは道路の反対側に肩掛けで持つなど、基本的な防犯対策をお願いしたい。今回、年度が変わるにあたって、異動で新たに赴任される方も多いかと思うの

で、再度の注意喚起をさせていただく。

昨年もお願ひさせて頂いたが、再度出会い系アプリ利用に関するお願ひをさせて頂きたい。出会い系アプリは日本同様にインドネシアにおいてもトラブルの温床となっている。詐欺や美人局の被害に遭った事例や、薬物に関するトラブルに巻き込まれたという事例も耳にしている。年度が替わり新たに赴任される方も多くなると思われることから、再度注意喚起をお願ひしたい。

3. 新型コロナウイルスをめぐる状況

(大使館医務官)

最近の医療事情ということで、在留邦人の方々から、今回のオミクロン株による感染拡大によって重症化した、あるいは、入院したいのにできなかったという話は聞いておらず、そもそも入院が必要となる例も今回はほぼなかったと認識している。

一方で、インドネシア政府としては今後、感染拡大を容認しつつ、経済を上げていくというところで、現在は一旦減少傾向ではあるが、今後また感染者が増えていく可能性がある。特に飛行機等に搭乗する際に抗原検査又はPCR検査が撤廃されたので、どの程度かは分からないがこのような場でも感染してしまうということは十分にあり得ると考える。そのための対策としては、これまでの対策に加えて、3度目の予防接種というのは今後のために有効になると思われるので、様々な機会ブースター接種が受けられるようになってきているので、できるだけ早い機会に接種することをお勧めする。

また、最近感染された方から、ブースター接種をどうしたらいいかという問い合わせを受けることがある。これに関して明確な答えはないが、感染後3ヶ月ほどの間はオミクロン株に対しては体内に免疫ができてきている状態なので、そういう意味では、すぐに再度感染するということはないかと思われる。ただし、ブースター接種に関しては、医学的な理由に加えて社会制度上の問題もあるため、感染後1ヶ月程度経っていれば接種を受けてもそれほど問題はないと考える。

4. 各社・機関からの状況報告

(企業からの報告)

現在、駐在員の感染者はなし。ナショナルスタッフについても感染報告はほぼない状況で減少傾向。質問となるが、ブースター接種について、工場や大規模なパブリックなどで接種を受けることができるが、特定のワクチン(例えばファイザーなど)を接種できる場所があれば教えていただきたい。

(企業からの報告)

先月は4名の感染者を確認したが、現在は全員回復済みで、1週間程度自宅にて自

主隔離を行っている。

(企業からの報告)

先週時点でインドネシア人スタッフ数名と、日本人スタッフ数名が感染していたが、週末を挟んで新たな感染者の報告は無し。昨日現在感染者は2名、いずれも重症化はしていない。

(企業からの報告)

1月下旬から2月初旬にかけて日本人駐在員1名、インドネシア人3名の感染者が出た。いずれも重症化せず、自宅療養のみで、現在は回復済み。ブースター接種については、インドネシア人スタッフの一部が受け始めているがまだ1割も満たしていない。赴任関係については、4月に後追いで家族の呼び寄せが1組ある。

(企業からの報告)

先月末まで日本人スタッフ及びナショナルスタッフ数名に感染者がいたが、現在は全員PCR検査で陰性を確認している。質問となるが、日本政府がインドネシアに対してオミクロン株非対象国にする時期の目処、あるいは、何か指標のようなものでどのような数値がどこまで下がれば非対象国となる目処が付くのか、そのようなものがあれば紹介いただきたい。

(企業からの報告)

コロナ感染状況については、ローカル社員は先月から今月にかけて複数名の感染者が出ている。日本人の駐在員についても1名感染していたが既に回復している。いずれも軽症で、ほとんどが仕事に戻っている。ブースター接種の状況は、ローカル社員は約2割が完了しており、日本人も1名のみ完了している。質問となるが、日本人の駐在員が、日本で1、2回目のワクチン接種を空港で行って「Peduli Lindungi」に登録している場合に、3回目のブースター接種のチケットは「Peduli Lindungi」上で届くものなのか教えていただきたい。

東部工業団地については、ブカシはPPKMのレベルが2のまま、カラワンはレベル3のままとなっている。1月末に工業大臣指示が発信されたので紹介させていただく。工業大臣からは、製造業及び工業団地のスタッフ、労働者、社員、職員向けの3回目のブースターワクチンを実施せよとの指示書が届いた。1、2回目のワクチン接種は今年の5月までに完了させるという内容になっており、3回目のワクチンに関しては、段階的に行うという形で指示が出ている。3回目のワクチン接種についても報告することが義務付けられているという内容になっているので、工場を持たれている企業については、工業団地側に問い合わせいただければこういった情報も出てくるかと思われるので確認いただきたい。

(企業からの報告)

罹患状況については、2月中旬辺りまでは多めに罹患者がいたが、2月末から今月

にかけては社内で数名程度、全員が軽症という状況。赴任者、出張者等も予定どおり進めている。

先ほど大使館から注意喚起があった点や、2月に大使館から注意喚起のメールがあった就労許可登録に関して、私たちはJJCのサービス部会に所属しているが、コンサルや弁護士も多く在籍しており、先月中旬に部会を開催した際にも、イミグレ、治安当局等からのビザや就労許可の関係の問題が寄せられているという報告があった。コロナ渦が続き単身赴任者が増えてきている中で、女性問題というのも相談を受けていると聞いている。4月は異動時期でもあるので、引き続き各社で注意喚起していくのが重要だと思い共有させていただいた。

(企業からの報告)

感染状況については、2月はナショナルスタッフが70名超、駐在員2名の感染があったがすべて軽症または無症状。3月に入って現時点で11名の感染者を確認しているが、感染者数のペースは落ち着いてきている印象。ブースター接種については案内が来たら順次積極的に接種を受けるようナショナルスタッフには案内している。現時点で数十名(30名~50名)が完了している。

(企業からの報告)

2月21日の週に感染者のピークで400名ほど現地職員が感染していたが、足下は300名程度と落ち着いてきている。ジャカルタ周辺は感染者が減って、どちらかというと地方で感染者が増えている。今週末にゴトンロヨンの従業員向けの3回目接種としてシノファームワクチンの接種を行う準備をしているところ。

(企業からの報告)

2月中旬頃に感染者のピークを迎え、従業員約5、500名のうち、400名ほどが感染していた。現在は落ち着いてきているがまだ50名ほどが療養中。駐在員は、ピーク時は5名ほど感染していたが、現在は1名のみと減少傾向。一方で弊社は定期的に抗原検査を全社的に行っており、これをやると感染者が見つかるので、現在感染が収まっているかというところはまだ油断できない状況。質問となるが、日本で7~9月頃あるいは新規赴任で、日本でファイザーやモデルナを接種した者が、インドネシアでファイザーワクチンをブースター接種した場合、日本に帰国した際に3回目接種した証明をどのように行うのか。現在だとワクチンの接種券も出ないし、「Peduli Lindungi」上でも表示できないとなると、日本政府公認のワクチンを3回接種したことが証明できないというのがクリティカルな問題。もし大使館の方で見解があれば伺いたい。レバラン休暇時に一時帰国を計画している社員がいるため、この辺りをクリアにしていきたい。

(企業からの報告)

先月、バリの事業所でクラスターが発生した旨報告したが、こちらは既に収まって

いて、現在は感染者ゼロ。一方、ジャカルタでは3事業所合わせて、ローカルスタッフ12名、日本人1名が先週時点で感染している。いずれも無症状または軽症。ブースター接種については、日本人は合計二十数名いるが、4人が先週ファイザーを接種した。ローカルスタッフも一部で接種が始まっている。

(企業からの報告)

先月は日本人数名の感染者が出たが、現在はほぼ全員回復している。ブースター接種に関しては、社内で接種プログラムが進んでいる。質問となるが、日本で接種を受けていて半年経過しているが「Peduli Lindungi」に3回目のワクチンチケットが表示されずブースター接種が受けられないという相談が多く、何か情報があれば教えていただきたい。

(企業からの報告)

1月から2月末にかけて、100人単位の当組織で約30名の感染者が出て、オミクロン株の感染力の強さを感じた。ただし、全員が軽症または無症状でこの点は第一波、第二波とは異なると非常に感じた。

(企業からの報告)

会社自身としては2月末のピーク時に16名ほどの日本人駐在員が感染していたが、現在は感染者が4名という状況。グループ全体で言えば9,700名中420名超(2月末時点)の感染があったが、直近は200名強まで落ちてきているので半減している状況。ブースター接種については、ナショナルスタッフを中心に1割強が接種完了しており、順次希望者が接種を受けている。駐在員についてもインドネシアで2回接種した者が数名おり、この数名は3回目接種を受けることができている。他方、日本で2回接種した者は「Peduli Lindungi」に3回目のチケットが届かず接種できていない状況。

(企業からの報告)

日本人駐在員が1人増えて5人になったが、日本人駐在員の感染者は出ていない。ローカルスタッフ(700~800人)については、現状、陽性は80名程度(1割強)となっており、増加のペースとしては頭打ちになってきている。いずれも重症化はしていない。ブースター接種については、日本人スタッフも希望者は受けており、ナショナルスタッフも接種を開始している。

(企業からの報告)

先月の海案協から、駐在員も含めかなり感染者が出たが、今月に入り新規感染者は出ておらず沈静化している。

(企業からの報告)

累計で20名ほどが感染していたがピークは過ぎた。他方、今週2名の感染を確認している。派遣員については10名ほどが感染していたが、全員が陰性となり、現在は感

染者なし。

(企業からの報告)

感染拡大が始まった1月以降、毎週1回全社員対象に抗原検査を実施、1月・2月の累計で約100名の陽性が確認、日本人も数名含まれる。3月に入り感染者数は減少している。すべて無症状か軽症。感染者の回復はデルタ株より早く、生産・出荷には影響していない。インドネシア政府の接種条件を満たした社員からブースター接種を行っている。

(企業からの報告)

先月報告した日本人の感染者は無事復帰。2月はナショナルスタッフ31名の感染が出たが、重症化例はなくいずれも軽症または無症状。引き続き早期発見と早期隔離に努めている。

(団体からの報告)

先月ナショナルスタッフ1名の感染を報告したが、その後回復して復帰している。それ以降の新規感染はなし。現在は50%の出勤体制。

(JICA)

直近1か月の感染状況は、インドネシア人スタッフ7名の感染者が出ている。日本人関係者(事務所員、技術協力専門家、家族等)は、12名の感染者が出ている。他方、先週頃から新規感染者数は減っており、現在療養中は2名のみ。感染者はいずれも軽症で自宅療養で済んでいる。2月中頃から本邦からの短期ベースの出張者の渡航は見合わせている。長期に赴任する者は予定どおり着任している。ブースター接種についてはこれからという状況。

(JETRO)

2月前半から中旬にかけて事務所内で立て続けに感染者が出て25名中6名ほどが感染したが、いずれも軽症で現在は既に収まっているという状況。

(国際交流基金)

スタッフ及び地方に派遣している日本語パートナーのうち2～3割が感染していたが、既にほとんどが回復しているという状況。

(チカラン日本人学校)

2月から感染が始まって児童生徒9名が感染。2月25日に最後の感染を確認。今週から全員復帰している。感染拡大時はオンライン授業に切り替えたが、3月1日から対面授業を再開しており、3学期終了が3月11日、保護者を招いての卒業式を予定している。

(ジャカルタ日本人学校)

2月24日にインドネシア人スタッフ及び教員のドライバーのPCR検査を実施したところ43名が陽性だったが全員無症状で、いずれも陰性となり職場に復帰している。

その後、卒業式が3月2日、終業式が昨日だったが、陽性となっていた7名の教員のうち5名が陰性となった。明日より春期休業に入り、新任教員は4月3日及び7日に合計13名が入国する。

5. 質疑応答

(大使館領事部長)

ご質問いただいたブースター接種におけるワクチンの種類を希望できるかという点に関して、外国人についても「Peduli Lindungi」に3回目接種のチケットが表示されるケースが増えてきている。これを持って最寄りの接種会場に行き接種を受けていただくことになるが、事前にその会場ではどの種類のワクチンが使われているかを確認いただく必要がある。なお、一部の大手の病院でも接種をしていると思うので、同様に事前に確認して、いただきたい。

(大使館医務官)

特に補足することはないが、事前にどの種類のワクチンが使われているかは分からないことがある。また、現在は1、2回目に接種したワクチンの種類によって、3回目のワクチンの種類が決まっているので、その辺りも確認いただきたい。どこで接種が受けられるかという点は、ジャカルタについては「JAKI」というコロナに関するサイト（またはアプリ）に接種会場等の情報があるので、ご参照いただきたい。

(大使館領事部長)

続いてご質問いただいた、日本政府が今後、オミクロン株の指定国からインドネシアを解除する見通しや基準等については、当館の厚労省アタッシェから厚労省本省へ問い合わせたところであるが、明確な数値の基準は特段ないという説明であり、一定期間のモニタリングで減少に転じているというところで判断している。インドネシアの感染者数が数値的に減少している状況が続いてくれればそう遠からず指定国から外れるという希望は持てると思われるが、現状いつ解除されるかは定かではない。

3回目の接種についての質問も多くいただいた。最近のインドネシア保健当局からの説明は、2回目の接種から6ヶ月経過している方に順次、接種券の案内が届くとのことだが、外国人は必ずしもそのようになっていない状況が見られる。外国人であっても、1、2回目をインドネシア国内で接種したか、自国等外国で接種したかによっても差異が生じている。日本人の場合は、1、2回目を日本で接種した場合に

「Peduli Lindungi」への反映が可能となっており、この手続きはオンラインで行う。他方、オンラインの登録がうまく行かないというケースも多々ある。また、登録はされたものの2回目の接種から6ヶ月経過していても3回目の案内が来ないという問い合わせも日頃よく受けている。まず、登録上の不具合についてはインドネシア保健省も重々認知しており、現在システムの抜本的な改善を進めているとの説明を受け

ている。そのため、個別の不具合については相談窓口では対応しかねるので、システム改善が完了するまで待つて欲しいとのスタンスである。また、1、2回目が登録されているのに3回目接種の案内が届かないという問い合わせもいただいているが、この点については2月18日に当館から発出した領事メールに、保健省の問い合わせ先（電話番号、メールアドレス等）を案内しているので、個別の問い合わせはこちらまでお願いしたい。ただし、インドネシア当局のレスポンスが非常に悪いとも聞いているので、その点の改善も当館から保健省へ申し入れているところ。多くの場合、アプリの不具合が原因で現在改善を進めているのももう少し待つて欲しいとの説明を保健省から受けている。3回目の接種券が届いてなくても、直接、接種会場や一部の医療機関に相談して3回目の接種を受けることができたケースも聞いている。接種会場やクリニック等に個別に相談してみても紹介を受けるというケースも聞いているため、必要があればそのような対応も検討いただきたい。また、日本での一時帰国時の接種については、3回目のワクチン接種の開始は、現在日本の外務省、厚労省の方で最終的な調整をしておりますもうすぐご案内できるかと思われるが、大使館からも在留邦人の要望の声が大きいことは伝えているため、もうしばらくお待ちいただきたい。

1、2回目を日本で接種して、3回目接種を「Peduli Lindungi」の接種券なしにファイザーを接種された方に関する質問をいただいた。接種券なしに3回目接種を受けた場合は、アプリへの反映が難しい状況と思われる。「Peduli Lindungi」に表示される接種証明書はインドネシア語のほか英語も併記されていて、これが3月1日からの水際措置の緩和について、1、2回目までと同様の「Peduli Lindungi」の接種証明書があれば緩和の要件が満たされることを確認している。他方、3回目接種がアプリに反映されていない場合は、紙媒体も含めて3回目の接種記録を何ももらっていないかどうにもならないと思われるが、紙媒体での接種記録をもらっているケースが多く、それらは、インドネシア保険当局の公式な接種記録カードであると伺っている。この接種記録カード（3回目接種であることが分かるもの）の発給を受けている場合は、これをもって日本入国時に検疫に提示していただきたい。ただし、この接種記録カードは、インドネシア語のみの記載となっているケースが多く、そのまま日本入国時に検疫官に提示しても受け付けられない。この対応としては、各社で記載事項の和訳文を作って当該者に持参させるようにしていただきたい。この和訳文は会社単位で作っていただくのが望ましいかと思われるが、厚労省によれば、個人で和訳文を作るのでも問題ない。最低限、和訳文に記載すべき事項として、氏名、生年月日、ワクチン種類又はメーカー、3回目の接種日及び3回目接種であること、が記載されている必要がある。

次回海安協は2022年4月12日（火）に開催予定。